

部 局	神戸大学大学院人文学研究科
所 属 講 座	社会文化講座
職 名	教授
氏 名	はらぐち たけし 原口 剛
学 位	博士（文学）（2007年3月）

(学 歴)

1995年 3月 鹿児島県立鶴丸高等学校卒業  
1996年 4月 東京大学教養学部文科Ⅲ類入学  
2000年 3月 東京大学文学部思想文化学科（倫理学専攻）卒業  
2000年 4月 大阪市立大学大学院文学研究科前期博士課程人間行動学専攻（地理学専修）入学  
2002年 3月 大阪市立大学大学院文学研究科前期博士課程人間行動学専攻（地理学専修）修了  
2002年 4月 大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程人間行動学専攻（地理学専修）入学  
2007年 3月 大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程人間行動学専攻（地理学専修）修了

(職 歴)

2006年 9月 大阪市立大学都市研究プラザ リサーチアシスタント（2007年3月まで）  
2007年11月 大阪市立大学都市研究プラザ 博士研究員（2008年3月まで）  
2007年 4月 大阪市立大学都市研究プラザ G-COE特別研究員（2011年3月まで）  
2008年 4月 日本学術振興会特別研究員（PD・神戸大学）（2011年3月まで）  
2011年 4月 大阪市立大学都市研究プラザ 研究補佐（2012年3月まで）  
2012年10月 神戸大学大学院人文学研究科 准教授（～2025年3月まで）

研究業績

著書・学術論文及び学会発表等	発行又は 発表年月	発行所及び 発表雑誌名等
(博士論文) 都市日雇労働市場の編成と労働市場の動態に関する地理学的研究——高度経済成長期の大阪を事例として	2007年3月	学位論文 (大阪市立大学大学院文学研究科提出) 206頁
(著書)		
1 (共著) DeMusik Inter.編『音の力<ストリート>占拠編』(担当論文:「天王寺青空カラオケ再考」)	2005年7月	インパクト出版会, 6~25頁
2 (共著) 加藤政洋・大城直樹編『都市空間の地理学』(担当:「デイヴィッド・レイとウィリアム・バンギ——地理学的探検」)	2006年9月	ミネルヴァ書房, 85~98頁
3 (共著) 梶田真・仁平尊明・加藤政洋編『地域調査ことはじめ——あるく・みる・かく』(担当:「フィールドとの「距離」と「つながり」——寄せ場・野宿生活者のフィールドワーク」)	2007年4月	ナカニシヤ出版, 229~240頁
4 (共著) 佐々木雅之・水内俊雄編『創造都市と社会包摂——文化多様性・市民知・まちづくり』(担当:「社会包摂に向けた地域組織の取り組みとその可能性——大阪・釜ヶ崎を事例として」, 西口宗宏との共著)	2009年8月	水曜社, 237~252頁
5 (共著) 竹中克之・大城直樹・梶田真・山村亜希編『人文地理学』(担当:「都市社会の分断を読み解く」)	2009年10月	ミネルヴァ書房, 47~64頁
6 (共著) 青木秀男編『ホームレス・スタディーズ——排除と包摂のリアリティ』(担当:「寄せ場「釜ヶ崎」の生産過程にみる空間の政治——「場所の構築」と「制度的実践」の視点から」, 「Column 強制撤去の理論」)	2010年11月	ミネルヴァ書房, 63~106頁, 285~286頁
7 (共著) 西澤晃彦編『労働再審4 周縁労働力の移動と再編』(担当:「地名なき寄せ場——都市再編とホームレス」)	2011年9月	大月書店, 157~200頁
8 (共編著) 原口剛・稲田七海・白波瀬達也・平川隆啓編『釜ヶ崎のススメ』(担当:「釜ヶ崎という地名」, 「騒乱のまち、釜ヶ崎」)	2011年10月	洛北出版, 15~37頁, 235~255頁
9 (共著) Benjamin Fraser (ed.), <i>Marxism and Urban Culture</i> , (担当:「The Urban Working-Class Culture of Riot in Osaka and L.A: Toward a Comparative History」, Manuel Yang, Kazuya Sakuradaとの共著)	2014年4月	Lexington Books, pp.213-238
10 (共著) 小笠原博毅・山本敦久編『反東京オリンピック宣言』(担当:「貧富の戦争がはじまる——オリンピックとジェントリフィケーションをめぐる」)	2016年8月	航思社, 94~109頁
11 (単著) 『叫びの都市——寄せ場、釜ヶ崎、流動的下層労働者』	2016年9月	洛北出版 409頁
12 (共著) Marcel van der Linden, Hugh Murphy, Raquel Varela (eds.), <i>Shipbuilding and Ship Repair Workers around the World: CASE STUDIES 1950-2010</i> (担当:「The lower labour market and the development of the post-war Japanese shipbuilding industry」, Kazuya Sakuradaとの共著)	2017年5月	Amsterdam University Press, pp.591-614

著書・学術論文及び学会発表等	発行又は 発表年月	発行所及び 発表雑誌名等
13 (共著) 船本洲治遺稿集刊行会編『[新版] 黙って野たれ死ぬな』(担当:「船本洲治め——解放の思想と実践」)	2017年6月	共和国, 15~39頁
14 (共著) 平田周・仙波希望編『惑星都市理論』(担当:「海の都市計画——ロジスティクスとインフラをめぐる」)	2021年4月	以文社, 153~181頁
15 (共編著) 吉村智博・白波瀬達也・櫻田和也編著『資料集・昭和期の都市労働者2 大阪:釜ヶ崎・日雇(図書資料編)戦後編前期』(担当:「解説 大阪における日雇い労働運動の形成と展開」)	2021年3月	近現代資料刊行会, 48~66頁
16 (共著) Lawrence D. Berg, Ulrich Best, Mary Gilmartin, Henrik Gutzon Larsen (eds.), <i>Placing Critical Geography: Historical Geographies of Critical Geography</i> , (担当:「Critical Geographies in Japan: A Diverse History of Critical Inquiry」, Koji Nakashima, Tamami Fukudaとの共著)	2021年11月	Routledge, pp.95-117
17 (共著) 角松生史・山本顕治・小田中直樹・窪田亜矢編『縮小社会における法的空間——ケアと包摂』(担当:「日本の都市においてジェントリフィケーションを理解するために——公共空間からのアプローチ」)	2022年2月	日本評論社, 46~62頁
18 (共著) 『人文研ブックレット No. 75——メガイベントと都市の暴力』(本岡拓哉・森千香子との共著)	2022年3月	同志社大学人文科学研究 所, 6~41頁
19 (共著) 立命館大学教養教育センター編『自由に生きるための知性とはなにか——リベラルアーツで未来をひらく』(担当:「まちあるきのすゝめ——迷える身体に向けて」, 加藤政洋との共著)	2022年9月	晶文社, 303~329頁
20 (共編著) 鈴木武・原口剛・森田和樹・板垣竜太『(同志社コリア研究叢書5) 翻訳と連帯——ある寄せ場労働者の「抗日パルチザン参加者たちの回想記」 翻訳の軌跡』	2023年3月	同志社コリア研究センタ ー, 326頁
21 (共著) 松田毅・藤木篤・新川拓哉編『3STEP 応用哲学』(担当「貧困——グローバルかつローカルな視点から貧困を考える」)	2023年11月	昭和堂, 75~85頁
22 (共著) 酒井朋子・奥田太郎・中村沙絵・福永真弓編『汚穢のリズム——きたなさ・おぞましさの生活考』(担当:「嗅ぎわける——嗅覚の地理」)	2024年1月	左右社, 96~105頁
23 (共著) 吉田容子・影山穂波編『ジェンダーの視点でよむ都市空間』(担当「ジェンダー化された空間の生産——寄せ場・釜ヶ崎はどのようにして形成されたのか」)	2024年5月	古今書院, 64~77頁
24 (共編著) 共編著『暴動の時代に生きて——山谷 '68-'86』(上山純二・中山幸雄と共編)	2024年10月	月曜社, 412頁
(翻訳) 1 ニール・スミス著『ジェントリフィケーションと報復都市——新たなる都市のフロンティア』	2014年5月	ミネルヴァ書房, 404頁

著書・学術論文及び学会発表等	発行又は 発表年月	発行所及び 発表雑誌名等
<p>(論文)</p> <p>1 (共著) 「西成差別とインナーシティにおけるまちづくり——大阪市西成区を事例として」 (水内俊雄・福原宏幸・花野孝史・若松司と共著)</p> <p>2 (単著) 「「寄せ場」の生産過程における場所の構築と制度的実践——大阪・「釜ヶ崎」を事例として」</p> <p>3 (共著) 「天王寺公園青空カラオケ屋台——公共空間の終焉の光景」 (酒井隆史と共著)</p> <p>4 (単著) 「1950—60年代の港湾運送業における寄せ場・釜ヶ崎の機能」</p> <p>5 (単著) 「イベントと野宿者の排除」</p> <p>6 (単著) 「戦後釜ヶ崎の形成史を問い直す——港湾労働との連関から」</p> <p>7 (単著) 「寄せ場——流動的下層労働者の抵抗史」</p> <p>8 (単著) 「都市のイマジニアリングと野宿生活者の排除——1980年代以降の大阪を事例として」</p> <p>9 (単著) 労働運動による空間の差異化の過程——1960-70年代の「寄せ場」釜ヶ崎における日雇労働運動を事例として</p> <p>10 (単著) 地名をめぐる場所の政治——1970年代と2000年代の「釜ヶ崎」を事例として</p> <p>11 (単著) 「「大阪的なもの」の所在——巷からの都市論に向けて」</p> <p>12 (単著) 'A Historical Geography of Kamagasaki and the "People's Infrastructure.'</p> <p>13 (単著) 「労働者の像から都市の記述へ——酒井隆史氏の書評への応答,白波瀬達也「貧困と地域」への問い」</p>	<p>2002年10月</p> <p>2003年4月</p> <p>2004年5月</p> <p>2006年3月</p> <p>2006年5月</p> <p>2007年7月</p> <p>2007年11月</p> <p>2008年3月</p> <p>2011年8月</p> <p>2012年9月</p> <p>2013年7月</p> <p>2017年3月</p> <p>2018年2月</p>	<p>『空間・社会・地理思想』(大阪市立大学)第7号, 17~37頁</p> <p>『人文地理』(人文地理学会), 第55巻2号, 121~143頁(査読有り)</p> <p>『世界』(岩波書店)第726号, 192~200頁</p> <p>『都市文化研究』(大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター)第7号, 34~49頁(査読有り)</p> <p>『寄せ場』(日本寄せ場学会)第19号, 122~134頁</p> <p>『寄せ場』(日本寄せ場学会)第20号, 201~222頁</p> <p>『立命館言語文化研究』(立命館大学国際言語文化研究所)第19巻2号, 137~148頁</p> <p>『龍谷大学経済学論集』(龍谷大学経済学会), 第47巻5号, 29~46頁(査読有り)</p> <p>『人文地理』(人文地理学会)第63巻4号, 324~343頁(査読有り)</p> <p>『地理学評論』(日本地理学会)第85巻5号, 468~491頁(査読有り)</p> <p>『市政研究』(大阪市政調査会)第180号, 28~38頁</p> <p>『DISASTER, INFRASTRUCTURE AND SOCIETY: Learning from the 2011 Earthquake in Japan』No.6 pp.30-37</p> <p>『理論と動態』第10号(社会理論・動態研究所), 104~113頁</p>

著書・学術論文及び学会発表等	発行又は 発表年月	発行所及び 発表雑誌名等
14 (共著) 「翻訳特集「解題：プラネタリー・アーバニゼーションをめぐる」 (平田周との共著)	2018年3月	『空間・社会・地理思想』第21号, 95～97頁
15 (単著) 「都市空間の略奪をめぐる抗争——大阪のケース・スタディ」	2019年3月	『東京外国語大学国際日本学研究報告』第6号, 75～78頁
16 (単著) 「プラネタリー・ジェントリフィケーションについてのノート」	2019年3月	『空間・社会・地理思想』第22号, 157～161頁
17 (単著) 「波止場の「荷抜き」と寄せ場の「キセル」」	2020年5月	『支援』第10号, 155～163頁
18 (単著) 「そのインフラはほんとうに必要なのか——ジェントリフィケーションと「都市空間の軍事化」をめぐる」	2020年8月	『福音と世界』第75巻8号, 18～23頁
19 (共著) 「ロジスティクスによる空間の生産——インフラストラクチャー、労働、対抗ロジスティクス」 (北川真也との共著)	2021年2月	『思想』第1162号, 78～99頁
20 (単著) 「サボタージュ、遮断、コモニ化——インフラからの解放のためのノート」	2022年1月	『福音と世界』第77巻1号, 5～10頁
21 (単著) 「インフラの呪縛からの解放——寄せ場の労働を再解釈する」	2022年2月	『大原社会問題研究所雑誌』第760号, 3～19頁
22 (単著) 「流民のカルトグラフィ——筑豊から釜ヶ崎への回路」	2022年11月	『現代思想』第50巻13号, 253-262頁
23 (単著) 「ジェントリフィケーションから報復都市へ——ニール・スミスによる批判的都市論の射程」	2022年11月	『都市計画』第71巻6号, 64～67頁
24 (共著) 「現代都市を捉える理論的基盤の探究——『惑星都市理論』からその先へ」 (荒又美陽・大城直樹・渡邊隼・北川真也・仙波希望・林凌・平田周との共著)	2023年3月	『明治大学人文科学研究so紀要』第90巻1-48頁
25 (単著) 「震災アスベスト被害の経験を語り継ぐ——「時間の壁」を乗り越えるために」	2025年1月	『環境と公害』第54巻3号, 14-19頁
(学会発表)		
1 (共同発表) 大阪市西成区に対する差別的地域表象の生成過程に関する一考察——釜ヶ崎及び部落解放運動を事例として (若松司と共同発表)	2001年3月28日	日本地理学会春季大会, 敬愛大学
2 都市下層の社会的結合とまなざしの介入——大阪・釜ヶ崎を事例として	2002年11月17日	人文地理学会大会, お茶の水女子大学
3 (共同発表) 'Neighborhood Association Struggle for Rehabilitating Community' (Munehiro Nishiguchiと共同発表)	2003年8月8日	3rd East Asian Regional Conference in Alternative Geography, Osaka City University, Japan
4 寄せ場における労働運動の生成とその論理	2003年11月16日	人文地理学会大会, 関西大学

著書・学術論文及び学会発表等	発行又は 発表年月	発行所及び 発表雑誌名等
5 ジェントリフィケーションをめぐる欧米都市論の争点	2005年3月29日	日本地理学会春季大会, 青山学院大学
6 万博とホームレス	2005年5月29日	日本寄せ場学会2005年度 総会, 名古屋なかまの家
7 The Struggle over Public Spaces: Urban Regeneration and Socio-Spatial Exclusion in Osaka City, Japan	2005年6月17日	Securing Urban Renaissance Conference: Policing, Community and Disorder, Glasgow University, UK
8 大阪港の港湾労働からみる釜ヶ崎の戦後史	2006年5月28日	日本寄せ場学会2006年度 総会, 京都精華大学
9 The Creation of Tourist City and the Attack on Homeless People: Neoliberal Urbanism in Osaka City, Japan	2006年8月11日	Revenge and Renewal Conference: Revanchist Urbanism and City Transformation, Newcastle University, UK
10 ポストモダン都市の階級闘争——公共空間をめぐる攻防	2008年6月22日	人文地理学会都市圏研究 部会、人文地理学会、関 西学院大学大阪梅田キャン パス
11 釜ヶ崎の現状と人権	2009年10月17日	桃山学院大学キリスト教 学会, 桃山学院大学
12 都市日雇労働の動態に関する地理学的研究——空間的回避／固定化・スケール・場所	2009年10月24日	日本地理学会秋季大会、 日本地理学会, 琉球大学
13 寄せ場と大学の関係性から見えるもの——1970年代寄せ場労働運動史ききとり調査中間報告	2009年11月29日	日本寄せ場学会秋季シン ポジウム, 日本寄せ場学 会, 京都大学
14 対話から地図を生み出す——地理学的アプローチによる文化創造の実践	2010年12月4日	人文地理学会第271回例 会, 人文地理学会, 大阪 市立大学都市研究プラザ
15 地名の再命名——インナーシティの衰退とアイデンティティ・ポリティクス	2011年3月30日	日本地理学会春季大会, 日本地理学会, 明治大学
16 The Development and Re-organization of Industrial Structures of the shipbuilding in Postwar Japan: A General Outline	2013年5月22日	Wokkshop “In The Same Boat: Shipbuilding and ship repair workers: a global labour history (1950-2010)” , International Institute of Social History, アムステル ダム (オランダ)

著書・学术论文及び学会発表等	発行又は 発表年月	発行所及び 発表雑誌名等
17 Workforce reductions in the Japanese shipbuilding industry	2014年7月17日	Workshop: Workforce Reductions in Shipbuilding Industries: Approaches from a Global Labor History Perspective, Humboldt University of Berlin
18 寄せ場の思想と闘争の原点——共同作業のための「地図化」の試み	2017年3月5日	社会思想史学会, 明治大学
19 「寄せ場」概念の再検討——移動性と拠点性をめぐって	2014年10月31日	人文地理学会, 広島大学
20 スマートなるものへの問いと抗い——寄せ場研究の視座から	2018年1月29日	人文地理学会第124回地理思想研究部会, 同志社大学 大阪サテライト・キャンパス
21 State-led Gentrification and Revanchism in the Olympic City: The case study of Tokyo	2018年12月12日	East Asian Regional Conference in Alternative Geography (EARCAG) 9th Meeting, Daegu Exco, 韓国
22 プラネタリー・ジェントリフィケーションと「略奪による蓄積」	2018年6月24日	カルチュラル・タイフーン2018, 龍谷大学大宮学舎
23 マルクス主義とフェミニズムの接点——寄せ場・野宿の運動からの視角	2019年9月22日	日本地理学会2019年秋季学術大会, 新潟大学
24 港湾労働者の労災職業病闘争と「空間の政治」——神戸港の「港湾病」認定闘争を事例として	2020年3月28日	日本地理学会2020年春季学術大会, 駒澤大学 (コロナ禍により開催中止)
25 'Tent Village' and the Politics of Urban Commons: Exploring the History of Squatting in Osaka, Japan.	2022年12月9日	The 10th East Asian Regional Conference in Alternative Geography, National Taiwan University, Taiwan
26 揺れる身体と都市の表象——映画『ハッピーアワー』に関する地理学的考察 (朝倉紀香との共同報告)	2023年3月25日	日本地理学会2023年春季学術大会, 東京都立大学
27 ルフェーヴル再考——杉江あい『カースト再考』の読解を通じて	2023年11月26日	2023年人文地理学会大会, 法政大学
28 釜ヶ崎のジェントリフィケーション——包摂する街の排除の力学 (渡辺拓哉・中村葉子との共同報告)	2024年9月23日	カルチュラル・タイフーン2024, デザイン・クリエイティブセンター神戸
(その他)		
1 (共著) 長居公園聞き取りの会『改訂ながいことはじめ——長居公園聞き取り報告書2001』	2024年1月	同研究にて本人担当部分抽出不可, 209頁

著書・学術論文及び学会発表等	発行又は 発表年月	発行所及び 発表雑誌名等
2 (共著)『西成差別実態調査報告書』(担当:第5章「西成」をめぐる差別の構造(2)」,第6章「西成区の歴史的特徴」)	2024年9月	ヒューマンライツ教育財団,121~135頁,137~148頁
3 「芸のある風景——天王寺公園青空カラオケ、そしてバンククのスラム」	2003年3月	『インパクション』第140号,162~164頁,インパクト出版会
4 「にしなり物語」	2004年10月	『にしなりどっとコム2004』,3~8頁,にしなりくらし組合
5 「現場から——釜ヶ崎発の通信いくつか」	2006年5月	『寄せ場』第19号,187~191頁,日本寄せ場学会
6 (書評)「法の力を自律の武器に——笹沼弘志『ホームレスと自立/排除——路上にくる幸福を夢見る権利>はあるか』を読む」	2008年6月	『寄せ場』第21号,258~60頁
7 (共著)白石嘉治・矢部史郎『VOL lexicon』(担当:「ジェントリフィケーション」)	2009年7月	以文社,78~79頁
8 (共著)森達也・鈴木謙介・原口剛「シンポジウム 戦争が生み出す社会 Part II」	2010年3月	『関西学院大学先端社会研究所紀要』第3巻,61~121頁,関西学院大学先端社会研究所
9 (書評)「過剰人類の氾濫——マイク・デイヴィス『スラムの惑星』を読む」	2010年4月	『VOL』第4号,以文社,190~193頁
10 (共著)原口剛・本岡拓哉・村上しほり『研究集会報告書 戦後都市周縁を記述する——計画と生成のジレンマをめぐって』	2012年4月	神戸大学大学院人間発達環境学研究所,7-22頁
11 (共著)中筋直哉・五十嵐泰正編『よくわかる都市社会学』(担当:「現象学的地理学の都市研究」,「ジェントリフィケーション」,「都市の語り」)	2013年4月	ミネルヴァ書房,24~25頁,32~33頁,130~131頁
12 (共著)『人文地理学事典』(担当:「ラディカル地理学」)	2015年3月	丸善出版,56~57頁
13 白波瀬達也・原口剛・渡辺拓也・北川幸彦・西澤晃彦・結城翼・綱島洋之「寄せ場はどこへ向かうのか——2017年8月28日寄せ場学会合同書評会」	2021年3月	『寄せ場』第30・31合併号,5~71頁
14 (共編著)寄せ場資料調査会『聞き書き山谷・釜ヶ崎闘争史(1) 風間竜次——証言と軌跡』	2021年11月	共同研究にて本人担当部分抽出不可,87頁
15 (書評)大都市を蝕む「搾取の生態系」——イ・ヘミ『搾取都市、ソウル』書評	2022年3月	webちくま

著書・学術論文及び学会発表等	発行又は 発表年月	発行所及び 発表雑誌名等
16 (共著) 川野英二編『阪神都市圏の研究』(担当: 「「波止場」の景観と記憶——もうひとつの阪神間都市論に向けて)	2022年3月	ナカニシヤ出版, 448~450頁
17 (共著) 大森佐和・西村幹子編『よくわかる開発学』(担当: 「先進国における貧困とコミュニティ開発の課題」)	2022年10月	ミネルヴァ書房, 166~167頁
18 (共著) 神戸大学人文学研究科編『人文学を解き放つ』(担当: 「土地に刻まれた記憶から学ぶ」)	2023年3月	神戸大学出版会, 195~200頁
19 「「ジェントリフィケーション」という言葉を使いこなしていくために」	2024年5月	『国際人権ひろば』第175号, 4~5頁
(その他の報告) 1 (共同発表) 継続する暴力・搾取への抗いについて——社会構成体の<周辺>をめぐる呼びかけ (小野俊彦との共同発表)	2006年7月22日	アルチュセール・マラソン・セッション「再生産は長く続く?」, 立命館大学
2 共同討議・戦争が生み出す社会 Part II	2009年1月21日	関西学院大学先端社会研究所シンポジウム, 関西学院大学 (共同討議者: 森達也・鈴木謙介)
3 現代都市の新植民地主義めぐって——寄せ場・野宿の現実からの問い	2014年10月25日	立命館大学国際言語文化研究所連続講座「西川長夫業績とその批判的検討」, 立命館大学
4 都市空間の略奪をめぐる抗争——大阪のケース・スタディ	2014年11月9日	東京外国語大学大学院日本学研究・現代アフリカ地域研究センター共催シンポジウム「日本 - アフリカ関係を通じたグローバル資本主義の批判的検討: 土地、空間、近代性」, 東京外国語大学
5 Gentrification and the "Atmospheric Violence". Toward a Critical Geography of Atmosphere	2024年1月20日	KOIAS INTERNATIONAL SYMPOSIUM 'Atmosphere in Architecture and Urban Design', 神戸大学